

P D C A サイクル表 (2 0 2 1 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
1	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	国家試験合格者の維持・向上	◆3学科 引き続き、国家試験合格者の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。	◎ ◎ ◎	●国家試験合格状況 (合格率：本学①、全国平均②、本学新卒③、全国新卒④) はり師：①97.4%、②74.2%、③100%、④90.3% きゅう師：①97.4%、②76.1%、③100%、④91.4% 柔道整復師：①84.2%、②62.9%、③87.1%、④81.0% 看護師：①96.6%、②91.3%、③98.2%、④96.5% 保健師：①92.9%、②89.3%、③92.9%、④93.0% ◆鍼灸学科 新学期オリエンテーション時より年間を通じて2年生～4年生、国家試験不合格の既卒者に対して国家試験合格に向けた指導を行った。国試合格率は、はり・きゅうともに4年生100%、既卒者83.3% (全国平均：はり21.1%；きゅう20.2%) だった。 ◆柔道整復学科 計画通り、国家試験の合格率の向上のために、模擬試験の後に実施する個別面談の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。またグループ学習の導入など、あらたな取り組みも行った。さらにカリキュラム外の補講の回数を増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率(100%)を達成することができなかった。 ◆看護学科 看護師国家試験、保健師国家試験ともに全国合格率を上回ったが100%には到達しなかった。	◆3学科 引き続き、国家試験合格者の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。		
2	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	成績上位者に対する研究意欲向上のための施策		◎	◆鍼灸学科 各教員が学生の学修状況を見ながら働きかけるよう心掛けたが、本年度の3年生には大学院を希望する学生が少なかった。研究に着手できるだけの学力がある学生が少ないのが現状である。			
3	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	出欠管理の徹底による出席不良者への指導	◆3学科 引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。	◎ ◎ ◎	◆鍼灸学科 アクティブポータルのアラートメールによって欠席の多い学生を早期に発見し情報を学科で共有したことで、学生アドバイザーや講義担当者、必要に応じて学生総合支援室と連携して対応ができた。感染症拡大の影響による支障は特になかった。 ◆柔道整復学科 アクティブポータルのアラートメールを活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ◆看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を実施。	◆3学科 引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。		
4	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	学力把握のためのアドバイザー制度の充実	◆3学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。	◎ ◎ ◎	◆鍼灸学科 アドバイザーを中心に、アクティブポータルの利用や当該学年の科目担当者、教務課、学生課、学生相談室と連携して学生の状況を把握した。 成績不良者に対しては早期に面談を行い、その状況を毎月の学科会議の学生の動向で報告し、学科全教員でその状況を共有し全員でのサポート体制を取った。必要に応じて保護者面談を行った。 ◆柔道整復学科 期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ◆看護学科 成績不良学生へのアドバイザーによる成績の把握および指導を徹底。指導については、アドバイザー学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を実施。	◆3学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。		

P D C A サイクル表 (2 0 2 1 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
5	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	カリキュラムの検討及び改善	◆3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	◎	◆鍼灸学科 2020年度に引き続き、従来の卒業論文提出フォーマットにA4・1枚の要旨フォーマットを加え、研究テーマも国家試験に直結するような内容として実施した。これにより成績下位者と指導教員の卒業研究に係る負担を減らし、国家試験に向けての学習、指導に専念できる対応を継続した。 国家試験WGを中心にカリキュラムの刷新を検討し、学科として検討していくこととした。 カリキュラムポリシーを検討し、変更を要する箇所がないことを確認した。 ◆柔道整復学科 新旧カリキュラムに対して、全て学科内の教員で担当し、新科目も問題なく導入できた。 ◆看護学科 2019年度に新カリキュラムを導入済。	◆3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。		
6	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	教養特講による基礎学力の強化 ↓ 低学年からの少人数ゼミによる基礎学力の強化	◆看護学科 引き続き、1-2年生融合科目化による基礎学力の向上のための教養特講の実施及び評価。 ゼミナール導入による基礎学力の強化については、次年度以降引き続き旧カリキュラム学生との対照において効果をモニターしていく。	◎	◆看護学科 2019年度新カリキュラムから、基礎学力の向上を目指し、少人数グループによるゼミナール形式の授業を1年生から行ってきたが、今年度は1、2年生混成のゼミナール構成を導入し、上級生が下級生を指導することにより向上を図った。	◆看護学科 引き続き、1-2年生融合科目化による基礎学力の向上のための教養特講の実施及び評価。	◆看護学科 全学年で少人数ゼミを実施。 1、2年生では基礎学力の向上のため、3、4年生では研究力向上のためのゼミナールの実施と評価。	
7	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	カリキュラム・ポリシーに則した学部の実践を意図した教育内容の評価	◆教務課 引き続き、3学科と連携し、次の通り取り組む。 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。 なお、FD研修会では教育の質の向上をテーマにして、教員の意識向上を図り、教授法や評価方法、学生の学修成果の把握などの充実に努めている。	◎	◆教務課 教養教育の適切な実施について、教務委員会において現状を整理するとともに、今後検討すべき課題について共有した。	◆教務課 引き続き、 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。		
8	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	カリキュラム・ポリシーに則した大学院の充実を意図した教育内容の評価	◆学務部 (大学院) 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を行うとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施していく。 入学者確保を優先事項とし、社会のニーズに合った教育課程の見直しと各研究科の魅力を学内外に発信していく。	○	◆学務部 今年度は教育課程の変更はなかったが、魅力ある科目群の配置と担当教員のバランスを図る必要があり、他大学院他研究科の情報収集を行った。	◆学務部 (大学院) 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施。		

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
追加1	教育研究等の質の向上	ディプロマ・ポリシーを反映させた教育の実践	専門職としてのビジョン創造					<ul style="list-style-type: none"> ◆鍼灸学科 臨床家としての心構えや将来展望を描けるようになるための、附属鍼灸センター関連授業や就職ガイダンスの実施。 ◆柔道整復学科 臨床実習や附属接骨センターでの実習を通して、学生が柔道整復師としての将来像を描けるように支援する。 ◆看護学科 看護専門職として様々な活躍の場について情報提供し、どのようなキャリアを積んでいくのかビジョンを描けるよう支援する。 ◆IR委員会 学修行動調査における「ディプロマポリシーの達成度」の調査結果を分析し、各学科へ還元する。 	
13	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	学生サポート体制	<p>◆3学科、学務部 左記学生サポート体制の継続・検証・改善に関するPDCAサイクルの推進。（退学者の未然防止、在学中の学修困難者支援体制）</p>	<p>鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ 学務部：◎</p>	<p>◆鍼灸学科 引き続き感染予防対策を講じた対面授業とともに、必要に応じて遠隔授業や補講も併用して行った。 入学前授業の実施、国家試験対策（国家試験WGを中心）の継続と検討、学年アドバイザー制で入学者全員がディプロマポリシーを達成できるような体制を継続した。 就職サポートに関しては、就職WGを中心に1年生と3年生に対するセミナーを実施するとともに、利便性等を考慮して、企業紹介、求人情報、卒業生による講話を視聴できる就職支援サイトをweb上に構築し、学生がいつでも自発的に情報にアクセスできるようにした。また、学生サポートセンターとの連携により就職活動状況を把握し、実際の就職活動に関わる支援が十分に行き渡るよう配慮した。 学習面でのサポート体制についても一定の成果が得られたものと考えられる。</p> <p>◆柔道整復学科 各学生を担当するアドバイザーによるサポートの強化を行った。具体的には最終学年の学生に対して面談を行うことで、希望する進路（就職先を含む）を把握することができた。またアドバイザーにより成績不良や欠席の多い学生に対して面談を実施できたことは、早期に学生のニーズを把握する上で有用な手段となった。</p> <p>◆看護学科 ①入学前授業を実施し、入学前から入学後の大学生活や学習の意識づけを強化し、入学前後のドロップアウトの防止を図る。②入試および毎年の成績を評価し、必要時、学生アドバイザーの選定等、効果的な学生指導を行うための情報として活用。③「少人数制で面倒見のいい大学」を実現するため、カリキュラムを改定し1年次から少人数編成によるゼミナールを行っているが、今年度は1、2年生混成ゼミナールを導入した。</p> <p>◆学務部 学生相談室及び総合支援室で障害対策や学修支援など、教員との連携によるサポートを強化。経済的困難者に対する授業料免除制度及び国の高等教育修学支援制度の的確な運用に努めた。退学者の状況・分析を行い、直近の年度については、在学中の成績推移も含めた入学者全員の卒業までの追跡調査を行った。各学科とも入学前授業は遠隔で実施。</p>	<p>◆3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善に関するPDCAサイクルの推進。</p>		

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
14	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	教育の質の充実を目的とした授業評価アンケートの実施	◆3学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケート結果のフィードバックの仕方を改善・整備・検討する。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ 学務部：◎	◆鍼灸学科 個々の教員への授業評価アンケートのフィードバックはあったが、学生による授業評価の解釈は難しく学科全体としての情報共有には至らなかった。 学生のニーズなどを把握するため、オリエンテーション時に鍼灸学科学生に対するアンケートを行う予定であったが実施できなかった（新学期に入って実施した）。今後このアンケートの授業評価に係る記述を活用していきたいと考える。 ◆柔道整復学科 授業評価アンケートの公表により、各教員へアンケート結果がフィードバックされた。また他の教員のアンケート結果が閲覧可能になったことから、それらを参考に各教員ごとにレベルアップに努めた。 ◆看護学科 授業評価アンケートの公表により、各教員へアンケート結果がフィードバックされた。また他の教員のアンケート結果が閲覧可能になったことから、それらを参考に各教員ごとにレベルアップに努めた。 ◆学務部 授業評価アンケートの当該教員へのフィードバックは実施し、共有を図った。今後授業改善に結び付ける方法を検討する必要がある。	◆3学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。		
15	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	アドバイザーによる学生の学習意欲等の把握（基礎学力の強化と検証の再掲）	◆3学科 引き続き、学生ニーズ等に関するPDCAサイクルの徹底。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 各学年アドバイザーを中心に、アクティブポータル、学生面談、卒業研究ゼミナール、日常の学生との歓談などによって、学生の出席や成績の状況、ニーズについての把握について努めた。 ◆柔道整復学科 学科会議にてアドバイザーより各担当学生の学習意欲（成績不良、欠席日数）等を報告することで、アドバイザーだけでなく、学科内の教員で学生の現状把握に努めた。 ◆看護学科 アドバイザー、アドバイザーリーダーによる成績不振者、出席不振者を中心とした学習意欲等の把握および個別指導を行い、また、ポータルサイトを活用し、必要時、教員間での学生に関する情報の共有を図り、連携して対応を行った。	◆3学科 引き続き、学生ニーズ等に関するPDCAサイクルの徹底。		
16	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	意見箱の活用	◆全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	鍼灸学科：◎ 看護学科：◎ 学務部：◎	◆鍼灸学科 意見箱は十分に活用はできなかったが、学生ニーズは学生アドバイザーほかの教員が学生との面談や日常会話で直接得ることができ、必要に応じて学科内で共有・検討した。 ◆看護学科 意見箱の内容については、学科として回答をおこない、意見及び回答を共有した。 ◆学務部 意見箱の内容については、学生委員会に報告・検討している（ただし、投函される意見要望件数が少なく、大半が無記名）。それ以外に、学生サポートセンターで、直接学生からの要望を聴くことが多い。	◆全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。		
17	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	積極的な課外活動（サークル活動など）の支援	◆学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。 学生生活に係る事案をタイムリーかつ年間計画に基づいて協議・推進していく。	学生委員会：◎	◆学生委員会 コロナ禍の下、当初はサークル活動の自粛を要請したが、後学期より感染対策を講じたサークルに対し活動再開を承認した。	◆学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。		

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
18	教育研究等の質の向上	退学率の改善	留年者、退学者対策	<p>◆3学科、学務部 左記学生サポート体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。</p>	<p>鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：○ 看護学科：◎ 学務部：◎</p>	<p>◆鍼灸学科 学年アドバイザーは学生の出欠をアクティブポータルでチェックし、欠席が多い学生については内容を学科共有ファイルに記入し、個別面談・指導を行った。 詳細な状況や面談の内容を学科会議で報告し、学科全体で情報を共有し対策について検討した。 必要に応じて学生総合支援室の臨床心理士も加わり対応したが、学習障害者、モチベーション低下による成績不良者の対応は難しかった。 留年者の減少には至らなかったが、退学者は最小限にとどまった。 ◆柔道整復学科 学内に設置されている学生総合支援室と密に連携を取ることで、成績不良や欠席の多い学生、および大学での学業に不安を抱える学生に対して、早期の対応が可能となり、退学者の減少につながった。 ◆看護学科 アドバイザー、アドバイザーリーダーによる成績不振者、出席不振者への個別対応を行い、ポータルサイトを併用しその共有化を推進し、年度途中における成績不振者、出席不振者およびその対応の評価をした。 ◆学務部 学生アドバイザー制度の活用により学生との接点を増やし、学生指導を徹底しつつ、学生総合支援室と教員との連携機会が増加した。 成績不振者ガイドラインに基づいた、退学・留年予備軍の把握、学生指導を実施。</p>	<p>◆3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。</p>		
19	教育研究等の質の向上	退学率の改善	留年者、退学者対策	<p>◆3学科 引き続き、 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。</p>	<p>鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎</p>	<p>◆鍼灸学科 1,2年生については、学生アドバイザーを中心に学期末試験、再試験の結果や欠席数などをもとに、問題があると思われる学生について面談・指導を実施した。 3年生については、上記に加え、卒論担当教員による指導、国家試験WGによる補講を実施した。 4年生については国家試験WGによる夏・冬季休暇期間中を含め、年間を通して補講を実施した。特に今年度は国試前の2か月間、遠隔による補習を成績下位者数名を対象として実施した。 成績不良者については科目担当者、卒論担当者が適宜面談、成績向上に向けての指導を、また種々の問題を抱える学生に対しては必要に応じて保護者も交え、学生総合支援室の臨床心理士による面談・指導を実施した。 ◆柔道整復学科 進級要件の変更（1年生）により、早期より学生に対して試験対策を含めたアプローチを行うことができた。そのことで留年者、退学者の大幅な減少につながった。 ◆看護学科 アドバイザー、アドバイザーリーダーによる成績不振者、出席不振者への個別対応を行い、ポータルサイトを併用しその共有化を推進し、年度途中における成績不振者、出席不振者およびその対応の評価をした。</p>	<p>◆3学科 引き続き、 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。</p>		

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
20	教育研究等の質の向上	退学率の改善	出欠席管理の徹底	◆3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	◎ ◎ ◎	◆鍼灸学科 アクティブポータルのアラートメールによって欠席の多い学生を早期に見つけ、学生アドバイザーや卒業担当教員を中心に学生に注意喚起し、必要に応じて学生相談室と連携して面談・指導を行った。これは、出席数不足による学期末試験受験不可者の減少に結びついたと思われる。 ◆柔道整復学科 アラートメールを活用したことで、出席不良者を早期かつ容易に把握することが可能となった。 ◆看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を実施。	◆3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。		
21	教育研究等の質の向上	退学率の改善	アドバイザーによる成績不良者等要指導者に対する継続指導の徹底	◆3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	◎ ◎ ◎	◆鍼灸学科 1,2,3年生については各学期の終了後、学生アドバイザーが担当学年の成績を確認し、成績不良者に対しては面談・指導、更に必要があれば保護者面談を実施した。 4年生については各総合実力試験の結果を受けて面談、学習指導を行った。 感染症拡大以前に夏休み前に行っていた対面での4年生保護者面談は実施できなかったが、後学期に入り面談の必要のある学生についてはリモートでの保護者面談を行った。 全学年について、学科会議での各学年のアドバイザーによる学生の動向報告において、当該学年科目担当者などから学生の情報を集め、学習に問題がある学生の早期発見に努めた。 学習障害など指導に専門的知識が必要とされる場合は学生総合支援室の臨床心理士による面談・指導を行った。感染症拡大の影響により対応は遠隔で行うことも多かったが、特に支障はなかった。 ◆柔道整復学科 アラートメールの活用、教員間での成績の共有、学科会議時に学生の動向（気になる学生）の報告を行うことで、早期にアドバイザーが指導を行うことができた。 ◆看護学科 アドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	◆3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。		

P D C A サイクル表 (2 0 2 1 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
22	教育研究等の質の向上	退学率の改善	学生支援室(特別支援教室)設置および支援室への大学院生・研究生・卒業生などの有効利用	◆3学科、学務部 引き続き、研修生・研究生・外部者などの有効利用を行う。	◎ ◎ ◎ ◎	◆鍼灸学科 学生総合支援室と連携して学生支援を行った。種々の問題を抱える学生に対して、より専門的で細やかな指導や助言が可能となった。ただ、全入の現状では基礎学力の低い学生の数が増加し、年々、SNSなどの普及によって、学生が抱える問題が見えづらくなり、対応が難しくなってきた。 ◆柔道整復学科 学内に設置されている学生総合支援室と密に連携を取ることで、大学院生などで大学での生活に不安を抱える学生に対して早期にアプローチを行う体制が整った。 ◆看護学科 必要時、カウンセラー・学生課と連携し、学生への対応を行う体制を整え、学生の支援を実施。 ◆学務部 学生総合支援室において学修支援を行っている。また、大学院生によるTA制度を活用し、学部指導補助も行った。	◆3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研修生・研究生・外部者などの有効利用開始。		
23	教育研究等の質の向上	退学率の改善	経済的側面に対する支援制度の継続的実施	◆財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。	◎	◆財務部 会計手続き上のミスもなく、適正な会計処理を行うことができた。 ◆学務部 授業料免除等規則の経済的理由(家計急変を含む)による授業料納入困難者も授業料免除の対象者とし、中途退学防止策とした。	◆財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。		
24	教育研究等の質の向上	退学率の改善	保護者との連携強化	◆3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。	◎ ◎ ◎	◆鍼灸学科 学期終了後に保護者に成績を通知した。また必要に応じて学生アドバイザーを中心とする教員や学生総合支援室の臨床心理士が、保護者と対面、または遠隔で面談し、退学の防止に努めた。 ◆柔道整復学科 成績不良者に対してアドバイザーより保護者に電話連絡するなど、可能な限り退学率の改善に努めた。 ◆看護学科 必要時、保護者面談を実施し、就学継続を確認し、保護者と連携して学生の支援を行った。就学継続が困難なケースについて、理由を明確にし、入学選抜試験を検討する際の資料とする。	◆3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。		
25	教育研究等の質の向上	退学率の改善	入学時点におけるミスマッチングの防止	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	◎	◆看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。		
26	教育研究等の質の向上	退学率の改善	入学時点におけるミスマッチングの防止	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	◎	◆看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。		

P D C A サイクル表 (2 0 2 1 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
27	教育研究等の質の向上	退学率の改善	学務システムの改善と有効活用	◆情報センター 学務システムの活用状況を検証。	◎	◆情報センター 学生への連絡手段が複数あり、発信者である事務局、教員によって様々な方法が用いられており、学生にとっては使いにくいことが判明した。 既存の就職支援システムの活用が困難であることが判明した。 就職支援サイトを新規に構築する技術支援を学生課に対して行った。			
28	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	治療体験・健康相談等実施(附属鍼灸センター) (削除、NO.31へ)	◆鍼灸学科 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力推進。	○	◆鍼灸学科 感染症拡大の影響で大部分の行事が中止となり十分に実施できなかった。 開催された豊洲フェスタでは東洋医学健康相談や耳ツボ体験を行った。 中高生対象の治療体験は希望者があったため実施した。			
29	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	研究を含めた来院患者等に関連した医療機関との連携推進(附属鍼灸センター) (削除・NO.55へ)	◆鍼灸学科 引き続き、研究を含めた附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携推進。	◎	◆鍼灸学科 科研究による継続研究『非特異的腰痛患者に対する鍼の効果』、『「肩こり」を問いなおす—米国における「neck pain」との比較から—』の研究参加者を、附属鍼灸センター来院患者から募集し附属クリニックと連携して行った。 ひもろぎクリニックとの連携で、精神疾患に関する研究を進めた。 来院患者について必要に応じて附属クリニックや関連病院にご高診を依頼して必要な情報やアドバイスを獲得して診療を行った。			
30	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	高校生・地域向けセミナー等の開催 (削除、NO.31、NO.59へ)	◆鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターや学科による地域向けセミナー等の開催。	○	◆鍼灸学科 感染症拡大の影響により、昨年同様に予定していた行事の大部分の行事が中止となり、実施できなかった。 開催された豊洲フェスタでは来場者に対して鍼灸の啓蒙活動を行った。昨年度に引き続き感染症下における健康増進を目的に、大学ホームページの「からだと心を癒す—ツボ押しセルフケア—」のサイトで鍼灸の成果や健康法について啓蒙・指導した。かえつ有明高校生徒の鍼灸センター見学ならびに鍼灸に関する学習会を行った。			
31	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	行政(江東区)、地域団体・機関及び有明スポーツセンター近隣住民との連携	◆鍼灸学科 ・引き続き、行政(江東区)との連携。 ・引き続き、有明スポーツセンターとの連携。	—	◆鍼灸学科 感染症拡大の影響により、昨年同様に予定していた行事の大部分の行事が中止となり、実施できなかった。 開催された豊洲フェスタ、近隣の住民から成る有明街づくりプロジェクトまつり実行委員会により実施された第5回有明まつりでは、来場者に対して鍼灸の啓蒙活動を行った。		◆鍼灸学科 行政(江東区)、有明スポーツセンター、有明マンション連合自治会などの連携・地域協力推進。 附属鍼灸センターや鍼灸学科による地域向けセミナー・健康相談等の開催。	
32	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	本学の人的資源を活かした連携	◆柔道整復学科 引き続き、地域連携として近隣中学校の授業(柔道)の支援や地域の子供達を対象にした少年柔道教室を開講し、さらなる連携強化を継続。	◎	◆柔道整復学科 少年柔道教室を週2回開催し、地域の子供達を中心に約50名が稽古に励んだ。			
33	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	有明マンション連合自治会との連携	◆柔道整復学科 引き続き、マンション対抗運動会などの行事へ参加し、さらなる地域連携を強化。	◎	◆柔道整復学科 10~11月に地域の住民(15名)を対象にTAU健康体操教室(全7回)を開催した。		◆柔道整復学科 引き続き、マンション対抗運動会などの行事へ参加し、さらなる地域連携を強化。	◆柔道整復学科 引き続き、TAU健康体操教室を企画し、さらなる地域連携を強化。

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
34	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	附属クリニック/接骨センターの活用	◆柔道整復学科 引き続き、附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。	◎	◆柔道整復学科 近年、接骨センターの患者数も増加していることから、地域住民の健康の保持・増進に貢献できていると考える。また附属接骨センターは附属クリニックとの連携が密であり、患者の後療依頼などが円滑に行うことができた。	◆柔道整復学科 引き続き、附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。		
35	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	図書館の開放	◆図書館 引き続き、図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進。	—	◆図書館 コロナ感染症の影響のため、一般利用者（学外者）への開放を中止した。	◆図書館 引き続き、図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進。		
36	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	江東区内各所におけるボランティア実習	◆看護学科 ボランティア実習導入（および導入効果の評価（老年看護学））	◎	◆看護学科 2019年度導入以降、関連機関ならびに教務予定等との調整を行い、ボランティア実習を実施した。	◆看護学科 ボランティア実習導入（および導入効果の評価（老年看護学））		
37	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	公衆衛生看護学実習先企業の健康管理業務への提言	◆看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。	◎	◆看護学科 看護学科公衆衛生看護学実習が、実習先企業との協定内容のとおり行われているか途中評価を実施。	◆看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。		
38	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	シミュレーション・ラボにおける訪問看護師の卒後教育の実施	◆看護学科 学生教育用シミュレーション・ラボへの協定先の訪問看護師の実技演習受け入れ及び評価。	—	◆看護学科 新型コロナウイルス拡大により実施できず	◆看護学科 学生教育用シミュレーション・ラボへの協定先の訪問看護師の実技演習受け入れ及び評価。		
39	教育研究等の質の向上	他大学との連携	共同研究の推進（他大学/他学科）	◆3学科 引き続き、学内外の共同研究を推進するための環境整備を実施。	◎	◆鍼灸学科 Harvard Medical School の Ted Kaptchuk教授(本学客員教授)、Harvard Medical School の Jian Kong准教授(本学客員教授)、イリノイ大学看護学部のJudith Schlaeger准教授(本学客員教授)、イリノイ大学看護学部長Patil Crystal教授、フロリダ大学看護学部Diana Wilkie教授との共同研究の継続。 東京大学の久保啓太郎准教授との共同研究の継続。 東京大学の中澤公孝教授との共同研究の継続。 ◆柔道整復学科 日本体育大学の教員と連携し、積極的に共同研究を実施することができた。 ◆看護学科 個々の教員がそれぞれの研究テーマに応じ、それぞれ他大学と連携し、共同研究等を実施した。	◆3学科 引き続き、学内外の共同研究を推進するための環境整備を実施。		
40	教育研究等の質の向上	他大学との連携	国際交流推進	◆学務部 左記国際交流推進体制の継続・検証・改善を実施。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。 PDCAサイクルの推進。	—	◆学務部 コロナ感染症のため大学間交流協定に基づく交流（モンゴル研修、シンガポール研修）は中止となった。	◆学務部 引き続き、左記国際交流推進体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。		

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
41	教育研究等の質の向上	他大学との連携	MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学への教員派遣と学生研修	◆鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	鍼灸学科：－	◆鍼灸学科： 2022年度ボストン研修：MCPHS大学(マサチューセッツ薬科健康科学大学)、Harvard Medical SchoolでのTed Kaptchuk教授の講義、MGH/HST Martinos Center for Biomedical ImagingでのJian Kong准教授の講義、イリノイ大学Judith Schlaeger准教授の講義、NESAの日本鍼部門長Diane先生の講義、そのほかマサチューセッツ総合病院、MIT博物館、ボストン美術館などの見学に向けて準備を進める予定であったが、感染症拡大の影響のため、昨年同様、準備を進めることが出来なかった。 学外実習の中で、東京大学附属病院リハビリテーション科、埼玉医科大学病院東洋医学科において大学院での鍼灸治療やチーム医療の実際について研修を行う予定であったが、感染症拡大の影響で実施できなかった。	◆鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◆鍼灸学科 教育の質の向上を目的とした、MCPHS大学、ハーバード・メディカル・スクール、イリノイ大学との連携による隔年の学生研修。	
42	教育研究等の質の向上	他大学との連携	シンガポール国立大学看護学部	◆看護学科 世界的な新型コロナウイルス感染症の感染状況を見て計画変更または実施。JASSO協定派遣は2020年度実施予定。	看護学科：－	◆看護学科 2021年度学生受け入れ、派遣は新型コロナウイルス感染症のため中止。	◆看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。		
43	教育研究等の質の向上	他大学との連携	オーストラリアCharles Sturt大学	◆看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	看護学科：◎	◆看護学科 学生派遣、受け入れに向けた準備継続。	◆看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。		
44	教育研究等の質の向上	他大学との連携	モンゴル国立医療科学大学	◆柔道整復学科 引き続き、これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 短期研修の受け入れはできなかったが、モンゴル国立医療科学大学の教員と積極的にオンライン会議を行うことで国際交流（大学間連携）が強化された。 新型コロナウイルスの影響により、モンゴルの留学生（大学院博士前期課程）2名は来日できなかったが、オンライン講義を実施した。	◆柔道整復学科 引き続き、これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。		
45	教育研究等の質の向上	他大学との連携	龍仁中学校（韓国）	◆柔道整復学科 引き続き、武道（柔道・龍武道）を通じた大学間連携の継続推進。	柔道整復学科：－	◆柔道整復学科 新型コロナウイルスの影響で次回の世界大会に向けた稽古を行うことができなかった。	◆柔道整復学科 引き続き、武道（柔道・龍武道）を通じた大学間連携の継続推進。		
46	教育研究等の質の向上	教育成果の見える化	国家試験結果の公表	◆事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。 国家試験結果のみを速報として掲載し、その後他の資格試験結果を加えたものに差し替える方法を検討する。	事務局：◎	◆事務局 過去3年分（2017～2020）の国家試験結果をHPに公表している。 国家試験結果とともに、他の資格試験結果（公認アスレティックトレーナー、健康運動実践指導者）を掲載しており、その発表が例年6月に行われるため、公表が遅れる傾向にある。	◆事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◆事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。 国家試験結果のみを速報として掲載し、その後他の資格試験結果を加えたものに差し替える方法を検討する。	

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
47	教育研究等の質の向上	教育成果の見える化	学生の研究成果公表	◆鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。	鍼灸学科：－	◆鍼灸学科： 卒業研究を卒業論文集にして図書館にて公開する予定であったが、昨年同様感染症拡大の影響で卒論の提出時期が大幅に遅れた。 昨年の卒業論文集とまとめて論文集を作成する予定であったが、諸般の状況を踏まえて卒業論文集の電子化について検討中である。 コロナ感染の影響もあり学部生の学会での研究発表は実施できなかった。	◆鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。	◆鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。 ◆柔道整復学科 学生による研究成果を関連の学術大会や学内の発表会で積極的に公表していく。	
追加2	教育研究等の質の向上	教育成果の見える化	学生評価方法の検討（ルーブリック評価表による専門科目の達成度評価）					◆鍼灸学科 学期末試験・GPA・実力試験をもとにした総合的な学習達成度の評価。 ◆柔道整復学科 各教科における期末試験（筆記試験、実技試験）の結果をもとに学習達成度を評価する。 ◆看護学科 ルーブリック評価表を用いて専門科目の達成度評価を実施する。	
48	教育研究等の質の向上	臨床の質の向上	附属クリニック・附属鍼灸センター・附属接骨院の連携強化	◆附属診療施設 引き続き、附属鍼灸センター・附属クリニック・附属接骨院の連携の強化。	附属鍼灸センター：◎ 附属接骨センター：◎ 附属クリニック：◎	◆附属鍼灸センター 附属クリニックより患者の紹介を受け鍼灸治療を行った。 附属鍼灸センター来院患者について必要に応じて附属クリニックに診療を依頼した。 急性外傷の患者について附属接骨センターの受診を勧めた。 科研費を獲得した「非特異的腰痛患者に対する鍼の効果」に関する研究の被験者となった患者の基礎データである脊椎X線撮影を附属クリニックにて行った。 ◆附属接骨センター 近年、接骨センターの患者数が増加していること、また附属クリニックの医師との連携が強化したことにより、学生に対して充実した臨床実習が展開できている。また実習を担当する教員の質の向上にもつながっている。 ◆附属クリニック 昨年度に引き続き、鍼灸センターや接骨センターへ患者を紹介する際は指示書を活用し連携を図った。	◆附属診療施設 引き続き、附属鍼灸センター・附属クリニック・附属接骨院の連携の強化。		
49	教育研究等の質の向上	臨床の質の向上	附属医療施設における臨床研究（EBM）強化 ↓ 附属鍼灸センターにおける臨床及び臨床教育機能の強化	◆鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。	鍼灸学科：○	◆鍼灸学科： 科研費基盤研究C『非特異的腰痛患者に対する鍼の効果』に関する研究の参加者を、また科研費基盤研究C『「肩こり」を問いなおすー米国における「neck pain」との比較からー』の研究参加者を、附属鍼灸センターに来院する患者から募集し、得られた結果のまとめや解析などを行った。 附属鍼灸センターの患者を対象としたケーススタディや症例集積研究を全日本鍼灸学会等関連学会で報告した。	◆鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。		
50	教育研究等の質の向上	臨床の質の向上	附属医療施設における臨床研究（EBM）強化 ↓ 附属鍼灸センターにおける臨床及び臨床教育機能の強化	◆鍼灸学科 引き続き、卒前・卒後における臨床教育講座の実施。	鍼灸学科：◎	◆鍼灸学科： 感染症拡大の中、感染予防対策を講じて臨床教育活動を行った。 卒前教育として学部4年生の附属鍼灸センター実習Ⅰ・Ⅱ、症例報告の書き方、症例報告、日本鍼灸理療専門学校3年生の見学実習、4年生の校外臨床実習の授業を行った。 卒後教育として本学および他の専門学校の卒業生25名を研修生として受け入れた。 大学院生の臨床実習の授業を行った。	◆鍼灸学科 引き続き、卒前・卒後における臨床教育講座の実施。		

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
51	教育研究等の質の向上	教育の質の向上	外部講師によるFD実施	◆鍼灸学科 引き続き、臨床及び研究能力向上を目的に外部講師を招聘し、教員に対するFDを実施。	鍼灸学科：－	◆鍼灸学科： 感染症拡大の影響で実施に至らなかった。	◆鍼灸学科 引き続き、臨床及び研究能力向上を目的に外部講師を招聘し、教員に対するFDを実施。		
52	教育研究等の質の向上	教育の質の向上	海外教育プログラム	◆3学科 引き続き、各連携大学での研修プログラム等の実施。	鍼灸学科：－ 柔道整復学科：－ 看護学科：－	◆鍼灸学科 2022年度ポストン研修（MCPHS大学での講義、Harvard Medical School のTed Kaptchuk教授の講義、MGH/HST Martinos Center for Biomedical ImagingでのJian Kong准教授の講義、イリノイ大学のJudith Schlaeger准教授の講義、NESAの日本鍼部門長Diane先生の講義、その他マサチューセッツ総合病院、MIT博物館、ボストン美術館などの見学）の準備を進める予定であったが、感染症拡大の影響により、準備は進められなかった。 ◆柔道整復学科 オンライン会議を行い、次年度に予定されている海外研修プログラムの準備を行うことができた。 ◆看護学科 シンガポール大学との間で相互研修派遣については計画・準備を進めていたが、2021年度は中止となった。2022年度の交流プログラムの計画・準備を行った。	◆3学科 引き続き、各連携大学での研修プログラム等の実施。		
53	教育研究等の質の向上	教育の質の向上	カリキュラムの検討及び改善	◆3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 国家試験出題基準の改定や問題数増加等のことから、卒業研究の在り方について検討し、昨年度より成績下位者への対応として、卒業論文提出フォーマットをこれまでのA4・2枚の他に、A4・1枚の要旨フォーマットを加え、研究テーマも国家試験に直結するような内容として実施した。これにより成績下位者に対する卒論担当教員の負担は軽減でき、国家試験に向けての学習、指導にその時間を割くことができたが、成績良好者の研究指導へ時間を増やすところまでには至らなかった。 国試WGを中心にカリキュラムの刷新を検討し学科として検討していくこととした。 カリキュラムポリシーを検討し、変更を要する箇所がないことを確認した。 ◆柔道整復学科 新旧カリキュラムに対して、全て学科内の教員で担当し、新科目も問題なく導入できた。 ◆看護学科 2019年度にカリキュラム改定を実施し、引き続き2022年度改定に向けての準備を行った。	◆3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。		
54	教育研究等の質の向上	研究の質の向上	研究体制の充実	◆3学科 引き続き、 ・実験機器の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化と研究。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 感染症拡大の影響で研究に制限があったが、学内の研究機材等を有効に活用して研究を行った。 外部資金獲得については、科研費申請5件中1件（基盤研究B）が採択され、他2件が継続中である。 学内特別研究費は申請した2件が採択された。 ◆柔道整復学科 教員、大学院生、学部生ともに、学内で所有している実験器具を使用し、関連学会、特に日本柔道整復接骨医学会学術大会において積極的に成果報告を行った。 ◆看護学科 学科共同研究費による萌芽的研究の助成を行った。	◆3学科 引き続き、 ・実験機器の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化と研究。	◆IR委員会 学長からの特命事項である「教員業績調査」について2023年度からの実施に向けて検討を進める。 (→調査結果に基づき、教員の研究活動に対し大学としての必要なサポートを行っていく。)	

P D C A サイクル表 (2021年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
55	教育研究等の質の向上	研究の質の向上	・附属鍼灸センターにおける臨床研究 (EBM) 強化 ・研究成果の公表	◆鍼灸学科 ・附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。(再掲) ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	◎	◆鍼灸学科 科研究費基盤研究C『非特異的腰痛患者に対する鍼の効果』に関する研究、科研究費基盤研究C『「肩こり」を問いなおす一米国における「neck pain」との比較から』の研究参加者を、附属鍼灸センターに来院する患者から募集し臨床研究：調査研究をいその結果のまとめと解析を行った。 附属鍼灸センターの患者を対象としたケーススタディ、症例集積研究を行い、成果について学会発表、論文掲載、修士論文の公開などを行った。	◆鍼灸学科 ・附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。(再掲) ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	◆鍼灸学科 附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。 教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	
56	教育研究等の質の向上	研究及び学会活動	研究環境の共有・所属学会の相互活用	◆3学科 引き続き、各専門分野における研究の実施を推進し、引き続き、倫理教育の徹底による不正防止体制を堅持。	◎	◆鍼灸学科 感染症の影響で研究に制限があったが、学内の研究機材等を有効に活用して研究を行った。 科研究費申請5件中1件(基盤研究B)が採択され、2件が継続中である。 学内特別研究費は申請した2件が採択された。 学部3年後学期から始まる卒業研究において、研究倫理に関する講義を行い、講義終了後、理解度試験を行い、その成績を含めた報告書を提出した。 ◆柔道整復学科 2021年9月29日に、卒業研究を開始する柔道整復学科3年生の47名に対し、研究に関する倫理教育を行った。また倫理教育後のフォローアップとして、各学生に対して、指導教員が研究倫理教育を行っている。 ◆看護学科 3年生を対象に、担当教員が看護研究に係る研究倫理について講義を行った(9月)。また、4年生・大学院生については、研究倫理を順守して看護研究を行うよう各担当教員が指導した。	◆3学科 引き続き、各専門分野における研究の実施を推進し、引き続き、倫理教育の徹底による不正防止体制を堅持。		
57	教育研究等の質の向上	大学院生の将来設計	博士前期課程	◆保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施するとともに、教育内容の見直しを含めて検討する。	◎	◆保健医療学研究科 大学院の修了生に対しては、主に指導教員が希望進路および就職・進学先を把握し、研究活動とともに指導を行っている。 ◆看護学研究科 将来設計の相談を受け、助言した。	◆保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施。		
58	教育研究等の質の向上	大学院生の将来設計	博士後期課程	◆保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制の強化を図るとともに、受け皿としての組織体制の整備を検討していく。	◎	◆保健医療学研究科 課程修了とともに、博士(鍼灸学)の学位を取得し、専門分野の研究職として活躍できる人材育成ができた。	◆保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。		
59	財政基盤の安定	入学者数の確保	定員、学費、資格(あん摩マッサージ指圧師)、広報関連 ↓ 鍼灸学科による学生募集のための活動		◎	◆鍼灸学科 ほぼ月に1回のペースで鍼灸学科広報WGIによるミーティングを行い、オープンキャンパス、広報活動などについて検討した。	◆鍼灸学科 鍼灸学科広報ワーキンググループを中心としたアドミッションセンターとの連携による、鍼灸および鍼灸学科の認知度を高めるための広報活動の企画・運営・評価。 附属鍼灸センターによる中高生に対する鍼灸治療体験の実施。		
60	財政基盤の安定	入学者数の確保	定員、学費、資格(あん摩マッサージ指圧師)、広報関連 ↓ 鍼灸学科による学生募集のための活動(削除、NO.59へ)						

P D C A サイクル表 (2 0 2 1 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
61	財政基盤の安定	入学者数の確保	高校訪問の実施	◆全学 引き続き、本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。	◎	◆鍼灸学科 高校に出向いて行う模擬授業・本学内で実施する高校生向け模擬授業・地域イベント・科学イベントなどは、感染症拡大の影響により大部分が実施できなかった。 一方で、鍼灸学科教員のメディア出演は、本学の知名度の向上につながっていると思われる。 高校生の鍼灸に関する認知度を効果的に上げるために、鍼灸学科独自のInstagram、TwitterなどのSNSを活用した広報活動にシフトしたため、高校訪問は近隣の1校にとどまった。 ◆柔道整復学科 柔道整復学科の教員と高校の教員（柔道部の監督・顧問）との深いかかわりから、数多くの入学生を紹介頂いている。新型コロナウイルスの影響で高校訪問はできなかったが、電話などで積極的にアプローチすることができた。 ◆看護学科 指定校推薦入試制度を強化するにあたり、その準備として、学科長・広報担当による実績校に対する高校訪問を行った。訪問不可能な場合には電話もしくはオンラインにてコンタクトを取った。	◆全学 引き続き、本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。	◆アドミッションセンター 引き続き、事務職員が教員と連携して、指定校や本学とつながりが深い高校に対して高校訪問を実施する	
62	財政基盤の安定	入学者数の確保	スポーツ推薦入試の拡充	◆柔道整復学科、アドミッション 引き続き、スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。	◎	◆柔道整復学科 オープンキャンパスの参加者や大学を訪問した高校生からスポーツ推薦入試の問合せが多いため、継続していく実施していく。	◆柔道整復学科、アドミッション 引き続き、スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。		
63	財政基盤の安定	入学者数の確保	指定校推薦枠拡大による優秀な学生の確保促進 (入学時におけるミスマッチングの再掲)	◆看護学科 コロナウイルス感染対策により変更の可能性あり	◎	◆看護学科 指定校推薦入試からの入学者枠を増やした結果、指定校推薦合格者数が増加した。	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。		
64	財政基盤の安定	入学者数の確保	指定校推薦枠拡大による優秀な学生の確保促進 (入学時におけるミスマッチングの再掲)	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	◎	◆看護学科 指定校からの入学者の評価は、概ね良好だった。	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。		
65	財政基盤の安定	入学者数の確保	オープンキャンパス	◆3学科 引き続き、参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。	◎	◆オープンキャンパス参加者数 3月21日：26名（鍼10、柔16）、5月16日：192名（鍼27、柔44、看121）、6月13日：223名（鍼32、柔38、看153）、7月18日：200名（鍼35、柔61、看104）、8月1日：64名（鍼19、柔45）、8月15日：223名（鍼62、柔60、看101）、9月19日：85名（鍼21、柔21、看43）、10月17日：56名（鍼9、柔12、看35）、その他（学校見学等）：111名（鍼12、柔29、看70）、合計1,180名（うちオンライン435名）（鍼227、柔326、看627） ◆鍼灸学科 広報WGを中心に、アドミッションセンターと連携して検討・準備を行い、オープンキャンパスを開催した。感染症拡大の影響で、遠隔・対面での実施の併用を余儀なくされ、SNSなどを駆使した柔軟な対応が必要になると思われる。 ◆柔道整復学科 オープンキャンパスを計8回実施し、柔道整復学科を希望した生徒の参加人数は297名であった。 ◆看護学科 オープンキャンパスを計7回開催した。その他OC以外の来場者も含めると、計627人の参加者があった。2020年と比較すると、16人減であった。	◆3学科 引き続き、参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。	◆鍼灸学科 アドミッションセンターとの連携によるオープンキャンパスの企画・実施・評価。 (もしくは3学科共通の計画)	

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
66	財政基盤の安定	入学者数の確保	ホームページの充実	◆アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツのさらなる整備、充実。	◎	◆アドミッションセンター 運営委員会での検討を重ね、動画コンテンツやSNSを充実させ、受験生の参加増加に努めた。	◆アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツ（国家試験合格率の推移等）のさらなる整備。	◆アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツのさらなる整備、充実。	
67	財政基盤の安定	入学者数の確保	宣伝広告	◆アドミッションセンター 引き続き、検討結果の実行。	◎	◆アドミッションセンター 運営委員会において効果的な広報媒体の検討を行い、受験サイトへの掲載を大手2社に絞り広報を行った。 オープンキャンパスの告知メールも時期を選んで業者の持つ医療技術職に興味ある受験生に発送した。 新型コロナに対応しつつ対面でのオープンキャンパスを開催した。進学サイトを通じた申し込みが多く、コロナ以前のようなオープンキャンパスと同等の参加実績があった。	◆アドミッションセンター 引き続き、検討結果の実行。		
68	財政基盤の安定	入学者数の確保	卒業生へのアプローチ	◆柔道整復学科 引き続き、各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動の依頼。 ・引き続き、さらなる社会人経験のある学生の受入れ（例 社会人入試、編入学入試）体制の整備。	◎	◆柔道整復学科 本学の卒業生の勤務する接骨院に来院した患者が本学に入学あるいはオープンキャンパスに参加するなど、卒業生による紹介が増加している。	◆柔道整復学科 引き続き、各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動の依頼。 ・引き続き、さらなる社会人経験のある学生の受入れ（例 社会人入試、編入学入試）体制の整備。		
69	財政基盤の安定	外部資金の獲得	科研費の積極的確保	◆公的研究支援室 引き続き、科研費獲得セミナーを開催し、積極的に応募してもらう研究者を増やしていく。 また、申請書の添削指導も含めて外部講師に依頼し、特に応募意欲のある研究者を中心にサポートしていく体制を検討する。	◎	◆公的研究支援室 科研費応募者に対する添削サービスを実施した。しかしながら当該応募者の中で採択された者はおらず、十分な回数の添削を受けたとはいえない状況であった。	◆公的研究支援室 申請状況の検証	◆公的研究支援室 応募意欲のある研究者を中心に外部の科研費獲得セミナーや外部講師による科研費申請書添削サービス等の体制を整備し、科研費間接経費の活用を促進する。	
70	財政基盤の安定	外部資金の獲得	科研費等研究助成事業	◆3学科 引き続き、科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。	○	◆鍼灸学科 科研費申請5件中1件（基盤研究B）が採択され、2件が継続中である。 ◆柔道整復学科 学科内の教員より、競争的資金（科研費）の獲得のための応募がなかった。 ◆看護学科 科学研究費等研究助成は一定数あった。ただし、その他の研究助成へのトライアルは少なかった。	◆3学科 引き続き、科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。		
71	財政基盤の安定	外部資金の獲得	経常費補助金の増加	◆財務部、学務部 学内ワークスタディ事業の実施。 引き続き、定員充足率を維持するためにどうしたら中途退学者を減少できるか検討する。	○	◆財務部 一般補助については、要件の認識不足もあり、申請期限に間に合わない項目が生じた。施設整備費補助金については、タイムリーな申請ができ、前年に続き、採択されるに至った。	◆財務部、学務部 取組可能事項の検討。	◆財務部 経常費の補助要件を十分検討し、利用可能な補助金を積極的に活用していく。	

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
72	財政基盤の安定	外部資金の獲得	外部資金のデータベース整理および競争的資金の獲得に向けた応募の推奨	◆3学科 引き続き、外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。	◎	◆鍼灸学科 外部資金の情報は適宜教員に告知したが、データベースの整理には至らなかった。公的研究支援室等で一本化した管理が望ましいと思われる。 感染症拡大の影響もあり科研申請へ向けての指導や検討は行わなかった。 ◆柔道整復学科 外部資金（競争的資金）獲得のために、財務部より申請支援（業者による添削サービス）の案内はあったが、学科内の利用者はいなかった。学科内の教員より、競争的資金（科研費）の獲得のための応募がなかった。	◆3学科 引き続き、外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。	◆鍼灸学科 外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。	
73	財政基盤の安定	外部資金の獲得	学内特別研究費	◆3学科 引き続き ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。	◎	◆鍼灸学科 学内研究費は2件が採択された。申請書作成の相互協力には至らなかった。 ◆柔道整復学科 特別研究費の募集に対して、積極的に応募し2名（新規1名・継続1名）が採択された。 ◆看護学科 特別研究費等への応募を行い、特別研究費（継続1件）、教育改革推進費（新規1件）が採択された。	◆3学科 引き続き ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。		
74	財政基盤の安定	外部資金の獲得	教員研究の推進のための学科共同研究費による萌芽的研究助成	◆看護学科 引き続き、学科共同研究費による萌芽的研究助成。	◎	◆看護学科 学科共同研究費により、教員研究を推進した。	◆看護学科 引き続き、学科共同研究費による萌芽的研究助成。		
75	財政基盤の安定	人件費の抑制	教員	◆3学科 引き続き、授業数/週に基づく教員の再構成。	◎	◆柔道整復学科 専任教員が補助教員に入ること、よりきめ細かい実技教育がなされたとともに、人件費の抑制につながったと考えられる。	◆3学科 引き続き、授業数/週に基づく教員の再構成。		
76	財政基盤の安定	人件費の抑制	人件費の抑制	◆法人本部 過去3年間の学生確保の状況に基づき、人件費の抑制策について検討を開始する。 ・人件費比率の上昇を抑制するため、人事関係規程の見直し、教職員の役職、年齢構成等の現状を踏まえた人員計画の検討。 ・人件費抑制を教育研究経費の確保増加に振り向け、支出構成バランスの改善を目指す。	△	◆法人本部 教職員の役職、年齢構成等の現状把握を踏まえた人員計画を検討し、教職員の採用については、退職者数を上回らない採用の抑制を図った。 人材の活用、活性化の基盤として人事情報管理システムの導入を検討した。次年度導入できるよう準備を進めていく。 人件費と教育研究経費の支出構成バランスについては、改善の余地を残した。	◆法人本部 過去4年間の学生確保の状況に基づき、人件費の抑制策を実施する。		
77	財政基盤の安定	物件費の削減	購入単価の見直し	◆保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター 担当者から提出された物件購入申請に基づき、購入目的や予算との費目数量や金額の妥当性等をチェックするとともに、必要に応じてヒアリングを行い、購入単価や数量について、以後の改善を指導していく。	◎	◆鍼灸学科・鍼灸センター 授業で使用する物品について可能なかぎり節約するよう努めた。 ◆看護学部 申請一覧を共有し、予算削減できないかの見直しを全領域について行い、物品の領域間での調整や融通を行った。 ◆財務部 見直し交渉は実施しているが成果に結びついていないため、購入数量や仕様変更をすることで少しでも削減することに努めた。	◆保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・検証。		

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
78	財政基盤の安定	物件費の削減	一般管理費の契約見直し及び経費削減の実施。中期計画期間の最終年度までの目標⇒一般管理経費5%削減	◆財務部 前年度に引き続き、一般管理費の削減推進。（電気料金など公共料金の割引率の見直し検討）	財務部：◎	◆財務部 デマンド監視装置による各電力量のコントロールが上手く行ったため、電力量に目立った超過は見られなかった。また電気需給契約更新時に電力使用量の1.5%削減を実施出来た。	◆財務部 前年度に引き続き、一般管理費の削減推進。		
追加3	財政基盤の安定	物件費の削減	ペーパーレス化の推進					◆財務部 2024年度の電子帳簿保存法の義務化に照準を合わせ、請求書等の証憑類の早期回収を図る。	
79	財政基盤の安定	余裕金の活用	現預金の確保と活用	◆法人本部 取引金融機関からも金融市場情報等を収集し、資産運用規程を遵守した資産運用方針の継続を前提とし、引き続き定期的な資産運用ポートフォリオの点検、見直しの検討を行う。	法人本部：◎	◆法人本部 月次で資産運用規定を遵守した運用状況の点検を行い、「資産運用状況報告書」を作成し、理事長に定期的に報告している。理事会・評議員会においても運用方針の説明、運用状況報告を実施した。2021年度は、運用資産配分（ポートフォリオ）異動はなく従来の運用方針を継続した。	◆法人本部 引き続き、現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。		
80	業務運営の改善	ガバナンスの強化	大学の適切な運営実施のためにIR委員会を活用し、学内外の様々なデータの収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	◆IR委員会 令和2年度の学修行動調査の分析を行うとともに、今年度も同様の調査を行う。その他、学長の指示のもと、必要な調査を行い、意思決定を支援していく。	IR委員会：○	◆IR委員会 令和2年度の学修行動調査の分析及び令和3年度も学修行動調査を実施するとともに、学長の指示に基づき、教員の業績調査の実施に向けての検討を開始し、調査項目の概略を決定した。	◆IR委員会 引き続き、IR委員会を活用し、IR委員会が関係部署と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	◆事務局 法人本部と連携し、ガバナンス・コードを策定を進め、ガバナンスの強化に努める。	
81	業務運営の改善	内部統制の強化	教職員等を対象に研究不正防止を目的とした倫理観や責任感を培うため、研究活動を通して全方位的な不正防止策への取組について周知徹底を継続実施する。	◆財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、全学的な不正防止策を目指す。（前年度までの問題点を整理し、重点課題とする。） 外部講師や科研費間接経費を利用しながら、研究者の不正が起りうる状況を把握し、重点課題として取り組んでいく。	財務部：◎	◆財務部 公的研究費の管理基盤を構築し、学長を中心とした管理体制を整備し、内外に周知することができた。またコンプライアンス教育についても推進責任者のもと、実施できた。	◆財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、全学的な不正防止策を目指す。（当年度は、前年度までの問題点を整理し、重点課題とする。）	◆公的研究費の管理・監査のガイドライン（令和3年2月1日改正）に基づき、不正発生要因を抽出した不正防止計画に取組み、不正の発生し難い体制整備に努めていく。	
82	業務運営の改善	内部統制の強化	監事との意思疎通を定期的に実施し、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。また、監査結果や意見の速やかな改善。	◆内部監査室 内部監査の結果は理事長に報告すると同時に、内部統制の整備及び運用状況を検討、評価し必要に応じてその改善を促す。 また、監事及び会計監査人との意思疎通を定期的に実施し、内部監査室は必要な情報を速やかに提供するなど監事監査及び会計監査人監査の目的達成に貢献する。	内部監査室：◎	◆内部監査室 内部統制を図るうえで、内部監査室としては、定期監査（会計監査8回（渋谷、有明各4回）、公的研究費監査1回）を実施するとともに、相互補完的に位置付けられている監事・会計監査・内部監査室による三様監査を効果的に進め、定期的に意思疎通を図り、必要な情報を相互に交換し、理事長へ監査の報告を行った。 また、東京有明医療大学中長期計画のPDCAサイクル実施状況（2020年度分）について、業務実施状況のヒアリングを実施した。	◆内部監査室 内部監査の結果は理事長に報告すると同時に、内部統制の整備及び運用状況を検討、評価し必要に応じてその改善を促す。 また、監事及び会計監査人との意思疎通を定期的に実施し、内部監査室は必要な情報を速やかに提供するなど監事監査及び会計監査人監査の目的達成に貢献する。		

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
83	業務運営の改善	戦略的な広報体制の確立	国家試験結果、学生の進路先、大学イベントの公表	◆アドミッションセンター引き続き、他大学の状況等を勘案し、情報の偏りが無いかのチェックし、国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の情報を公表していく。	アドミッションセンター：◎	◆アドミッションセンター情報公開ページの見直しを行い、情報を更新・掲載した。	◆アドミッションセンター引き続き、国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の公表。		
84	業務運営の改善	戦略的な広報体制の確立	教員の活動に関する公表	◆アドミッションセンター引き続き、IR委員会と連携して、教員の研究活動に関する調査を行い、公表に結びつける。	アドミッションセンター：○	◆アドミッションセンター教員の成果の把握が十分なされておらず、教員の活動に関する情報公開ができていないが、IR委員会においては教員の業績調査に着手した。	◆アドミッションセンター引き続き、教員の活動に関する公表。	◆アドミッションセンター引き続き、IR委員会と連携して、教員の研究活動に関する調査を行い、公表に結びつける。	
85	業務運営の改善	情報公開	ソーシャルメディア（削除）						
86	業務運営の改善	Webサイト	更新作業の効率化	◆情報センターCMS導入完了。	情報センター：○	◆情報センター80%ほどの作業は完了したが、導入完了には至らなかった。	◆情報センターCMS導入効果を検証。		
87	業務運営の改善	教職員の業務省力化	ICT導入による業務省力化	◆情報センター業務省力化のためのシステム整備の推進を図る。教職員の合意を得るための講習会を実施する。	情報センター：○	◆情報センターインフォテック「Create!Web」、サテライトオフィス「ワークフロー」をトライアル利用した。見積を貰い費用対効果を検討した。教職員向けに講座開催をするよう交渉したがコロナのために短い動画のみになり、学内講習会は実施できなかった。	◆情報センターシステム導入完了。	◆情報センター学内合意が得られておらず、引き続き、動画やリモートの講習会も検討し、講習会開催に向け調整する。	
88	自己点検・評価	外部評価機関の活用	日本高等教育評価機構による認証評価受審	◆大学評価委員会令和2年度の自己点検評価を、新基準にて作成する。令和3年7月に受審申請を行う。	大学評価委員会：◎	◆大学評価委員会計画通り、令和2年度の自己点検評価を新基準にて作成し、HPに公開した。令和3年7月に、令和4年度大学別認証評価に対する受審申請を行った。	◆全学日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、その結果を改善に向け有効活用する。		
89	自己点検・評価	自己点検・評価の実施	中期計画、年度計画について、各部署において、自己点検・評価を実施するとともに学長を中心とした評価委員会での適切な進捗管理を実施。	◆評価委員会、総務部引き続き、年度計画について、評価委員会が進捗状況を管理し着実な計画の遂行。	大学評価委員会：◎	◆大学評価委員会中長期計画（PDCAサイクル表）の進捗状況を管理し、計画の遂行状況の把握に努めた。内部監査室による実施状況のヒアリングを実施し、委員会において報告を受けた。見直し分科会を組成し、項目の見直しを行い、2022年～2023年度の計画の一部修正を行った。	◆評価委員会、総務部引き続き、年度計画について、評価委員会が進捗状況を管理し着実な計画の遂行。		
90	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	シミュレーション・ラボの整備及び有効活用	◆看護学科引き続き、シミュレーションラボの運用・評価。	看護学科：◎	◆看護学科特別研究にて、シミュレーションラボの効果に関する研究を開始した。	◆看護学科引き続き、シミュレーションラボの運用・評価。		

P D C A サイクル表 (2 0 2 1 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
91	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	既存施設・設備の調査による状況の的確な把握。その結果に基づく保守管理計画を策定し維持保全を推進。	◆総務部 2020年度に実施した調査・点検を基に、保守管理計画及び予算計画の策定する。	◎	◆総務部 点検結果を基に施設設備の現状を的確に把握し、必要な箇所については適宜修繕を実施し、キャンパス環境の整備を行った。 株式会社清水建設の助言を受けながら長期的な設備保守管理計画案の作成に着手した	◆総務部 前年度に引き続き、計画を推進。	◆総務部 2021年度に作成した長期修繕計画を基に、計画を推進していく。	
92	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	防災設備	◆総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	◎	◆総務部 点検の結果、2021年度は一部の消耗品の交換を行い、施設の維持に努めた。 2022年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	◆総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。		
93	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	衛生設備	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	◎	◆総務部 点検の結果、2021年度は故障等の異常が確認できなかったため、2022年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	
94	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	電気設備	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	◎	◆総務部 点検の結果、設備の一部に経年劣化による故障が認められたため、修繕を実施。2022年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。		
95	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	建築設備	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	◎	◆総務部 点検の結果、設備の一部に経年劣化による故障が認められたため、修繕を実施。2022年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。		
96	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	既存の安全管理・危機管理（リスクマネジメント）体制の検証及び体制の見直しや強化を推進。また、マニュアル等の改訂及び周知徹底を促進。	◆危機管理委員会、防災対策委員課、総務部 コロナ対応での経験を踏まえ、安全管理・危機管理体制の見直しを行い、マニュアル等の改定を行う。	○	◆危機管理委員会 9月30日の緊急事態宣言解除に当たり、その後の対応方針について協議し、速やかに教職員、学生に対し告知を行った。	◆危機管理委員会、防災対策委員課、総務部 必要に応じ、安全管理・危機管理体制やマニュアル等を改善。		
97	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	備蓄	◆危機管理委員会、防災対策委員会 引き続き、震災時などに対する備蓄の見直しを行う。	○	◆総務部 非常用飲料水については、消費期限が先のため特に入替なし。	◆危機管理委員会、防災対策委員会 引き続き、震災時などに対する備蓄。	◆危機管理委員会、防災対策委員会 非常用飲料水の消費期限が2021年11月で切れるため、入れ替えをする。また、新たに非常用食料を500食分購入する。	
98	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	守衛、防犯カメラ	◆事務局 引き続き防犯カメラの入れ替えを検討	◎	◆事務局（総務部） 防犯カメラシステムは2021年6月に既存の14台を入れ替え、新たに駐車場やロッカールーム周辺など6台を追加して死角を少なくし、レコーダーやモニターも更新するなど、より防犯性を高めた。		◆事務局 2021年度に入れ替えた防犯カメラを適切に運用し、警備会社や守衛（用務員）と連携して防犯に努める。	

PDCAサイクル表（2021年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
99	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	学外への業務データ保管・二重化	◆情報センター 108の設計に組み込めないか、調査検討する。設計と実施計画書を策定する。	情報センター：◎	◆情報センター 設計を108に組み込む。認証基盤とファイルサーバの更新に向け、仕様の策定に着手した。	◆情報センター 業務データの二重化を完成。	◆情報センター 現行サーバの保守更新ができる場合にはサーバの更新を2023年度に後ろ倒しする。保守更新ができない場合には完了する。	
100	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	研究環境の整備				◆3学科、財務部、学務部 研究環境の充実に関する検討。	◆3学科、財務部、学務部 研究環境の充実に関する検討。 (科研費間接経費の有効利用を含む)	
101	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	課外活動団体の部室確保	◆学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。	学生委員会：○	◆学生委員会 11月より、コロナ対策を講じたサークルより活動の再開を行った。	◆学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。		
102	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	ネットワーク関係の整備	◆情報センター 現在接続している回線(SINET5)が終了する年度。次期SINETへの円滑な移行を実施。対外接続用のルーター・ファイアウォールの次期の仕様を確定。	情報センター：◎	◆情報センター SINET6への接続を完了した。対外接続用ファイアウォールを更新した。	◆情報センター 次期SINETへの移行および対外接続用のルーター・ファイアウォールの更新を完了。		
103	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター (削除、NO.31へ)	◆附属鍼灸センター 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力。	鍼灸センター：○	◆鍼灸センター 感染症拡大の影響で大部分の行事が中止となり十分には実施できなかった。開催された第5回有明まつりでは鍼灸ブースの出店、豊洲フェスタでは東洋医学健康相談や耳ツボ体験を行った。中高生対象の治療体験は希望者があったため実施した。かえつ有明高校の生徒の見学を受け入れ学習会を行った。			
104	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター	◆附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携。	鍼灸センター：◎	◆鍼灸センター 科研費による継続研究『非特異的腰痛患者に対する鍼の効果』、『「肩こり」を問いなおすー米国における「neck pain」との比較からー』の研究参加者を、附属鍼灸センター来院患者から募集し附属クリニックと連携して行い、その結果のまとめと解析を行った。ひもろぎクリニックとの連携で、精神疾患に関する研究を進めた。来院患者について必要に応じて附属クリニックや関連病院にご高診を依頼して必要な情報やアドバイスを得て診療を行った。	◆附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携。	◆附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携。	
105	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター (削除、NO.31へ)	◆附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センターの地域向け公開講座等イベント開催。	鍼灸センター：○	◆鍼灸センター 感染症拡大の影響で大部分の行事が中止となり十分に実施できなかった。開催された第5回有明まつりでは鍼灸ブースの出店、豊洲フェスタでは東洋医学健康相談や耳ツボ体験を行った。中高生対象の治療体験は希望者があったため実施した。かえつ有明高校の生徒の見学を受け入れ学習会を行った。	◆附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センターの地域向け公開講座等イベント開催。		

P D C A サイクル表 (2 0 2 1 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2021年度	実施結果		2022年度	2022年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
106	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	区民公開講座の開催	◆看護学科 引き続き、区民公開講座の開催。	看護学科：－	◆看護学科 コロナ感染症のため開催なし。	◆看護学科 引き続き、区民公開講座の開催。		
107	キャンパス整備・危機管理	附属接骨センターの充実	人的・設備環境の整備	◆附属接骨センター ・引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。 ・引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。	附属接骨センター：◎	◆附属接骨センター 柔道整復師の資格を持つ教員および大学院生が患者の施術に当たっている。また施術所内における各治療スペースは、パーティションで隔てており、患者のプライバシー保護に十分配慮している。	◆附属接骨センター ・引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。 ・引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。		
108	キャンパス整備・危機管理	サーバの整備		◆情報センター 認証基盤、ファイルサーバの更新に着手。	情報センター：◎	◆情報センター 認証基盤とファイルサーバの更新に向け、仕様の策定に着手した。	◆情報センター 認証基盤、ファイルサーバの更新を完了。	◆情報センター 現行サーバの保守更新ができる場合にはサーバの更新を2023年度に後倒しする。保守更新ができない場合には更新を完了する。	
109	キャンパス整備・危機管理	職員の業務用PCの整備		◆情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。	情報センター：◎	◆情報センター Windows11が提供されたが、Windows10も2025年まではサポートがあることを確認した。	◆情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。		
110	キャンパス整備・危機管理	コンピュータ教室	老朽化した機器の入れ替え	◆情報センター プロジェクトの入れ替えを実施。	情報センター：○	◆情報センター 費用の問題があり旧プロジェクトの入れ替えは出来ず、安価な卓上プロジェクトの設置を行い故障に備えた。	◆情報センター 卓上プロジェクトを増設し故障に備えており、入れ替えは22年度以降の課題。予算面をクリアするため、補助金の利用などを検討。		
111	キャンパス整備・危機管理	セキュリティ対策	セキュリティ対策	◆情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。	情報センター：◎	◆情報センター 9/9に職員が文科省のサイバーセキュリティ研修（戦略マネジメント層研修）を受講した。教職員向けに2回、情報センター運営委員向けに1回セキュリティ研修を行い注意喚起と教育を行った。	◆情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。		
112	キャンパス整備・危機管理	安全衛生管理	安全衛生管理	◆衛生委員会 引き続き、職場巡視やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会で結果の調査、検討を実施、必要に応じて改善する。 ・ストレスチェックの集団分析結果に適した内容の講演会を開催する。 ・職場巡視を継続し、職場環境改善に努める。 ・地域の感染状況や学内の状況を併せ、適宜感染拡大防止策を見直していく。	衛生委員会：◎ 附属クリニック、保健管理センター、総務部：◎	◆衛生委員会 今年度のストレスチェックの高ストレス者割合は、前年度13.3%に対し、18.8%であった。業種平均13.4%、全国平均14.3%と比較しても高い数値であった。 セルフケア研修会は研修後のアンケートの結果から参考になった等の意見が多く、満足度の高い結果となった。 職場巡視では、短期的な問題についてはすぐに改善することができた。 ◆附属クリニック、保健管理センター、総務部 コロナワクチン接種を実施。大学及び渋谷専門学校、教職員の他、近隣(江東区内)教育機関の教職員を対象として1,053名(1,2回合計で延べ2,098名)への接種を行った。	◆衛生委員会 引き続き、職場巡視やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会で結果の調査、検討を実施、必要に応じて改善する。		